

研究プロセスの充実

北海道教育大学附属旭川小学校長 南 部 正 人

平成30年度北海道教育大学附属旭川小学校教育研究大会は、公開授業、各部会、講演会と、上川管内外から多くの皆様方に御参加いただき、盛会のうちに閉じることができました。大会を開催するにあたり、御指導、御支援を賜りました北海道教育庁上川教育局、旭川市教育委員会をはじめ関係諸機関の皆様に深く感謝申し上げます。また、御来賓、助言者、司会者、記録者をはじめ、御参加の皆様に深く御礼申し上げます。

今年度の研究主題は「学びをつなぐ子供を育てる教育活動の創造～深い学びを実現する学習づくり」です。その主な研究内容は(1)深い学びを生み出す単元構成、(2)深い学びを実現する授業展開、(3)深い学びの成果を実感する評価となります。これは昨年度の「学びをつなぐ子供を育てる教育活動の創造～各教科において重視する資質・能力の育成を目指す学習づくり」を受けての2年次の研究主題にあたります。これらの研究主題は新しい学習指導要領において期待される学びに対応しています。加えて、過去の附属旭川小学校の研究主題を基盤に展開しています。平成26年度から28年度までの「自ら学び、考え、行動する子供を育てる教育活動の創造」がそれです。今年度の研究成果が、上川、旭川地域に加えて広く活用され、ニーズに応えることを願っています。

全国の大学附属学校の置かれている状況は厳しさを増しています。本校でも附属学校の使命が、自校の児童生徒に優れた教育を提供するだけでなく、学び続ける教員を支え、地域の児童生徒に研究成果を届けるまでがその責務だと強調されています。こうした使命をより具体化するためには、研究プロセスの更なる充実が求められます。地域の教育ニーズの把握、新学習指導要領への対応、カリキュラムマネジメントをはじめ、直近の諸課題に向かい合った研究主題を、計画的・組織的に設定する必要があります。

一方で、長年に渡って継続してきた「主体的人間」とした本質的な研究主題が、いかに積み上がっているかを確認する必要があります。また、研究方法においてもエビデンスを基盤とした今日的な実践研究方法を取り入れる必要があります。しかし、従来から進めている研究方法である、児童生徒に対する温かい見取りは、変わらずに重要な意義をもちます。加えて、研究成果を多くの先生たちを介して児童生徒まで伝えるためには、研究大会実施方法や研究報告書のたゆまぬ改善が期待されます。

大学の附属学校が、今日的な研究手法を基盤として優れた教育を児童生徒に提供し、研究成果を広く地域において活用いただけるよう、今後とも御指導、御協力を賜りたくお願い申し上げます。